

平成26年度  
燕市教育行政評価結果報告書



燕市教育委員会



# 目 次

## I. はじめに

1. 点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 教育行政評価委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 点検・評価の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

## II. 教育委員の事業一覧

1. 平成26年度の教育委員会の主要事業一覧・・・・・・・・・・ 3

## III 点検・評価の結果（平成26年度評価対象事業）

1. 「子どもを育む推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
2. 「燕キャプテンミーティング事業」・・・・・・・・・・・・・・ 11
3. 「スポーツエキスパート活用事業」・・・・・・・・・・・・・・ 12
4. 「教育指導（標準学力検査等の実施）事業」・・・・・・・・・・・・ 13
5. 「地域に根ざす学校応援団事業」・・・・・・・・・・・・・・ 15
6. 「別室登校児童生徒学習支援員配置事業」・・・・・・・・・・・・ 16
7. 「教育振興扶助費（小学校費・中学校費）事業」・・・・・・・・・・・・ 17
8. 「ICT 教育推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
9. 「燕西小学校屋内運動場天井耐震改修工事」・・・・・・・・・・・・ 19
10. 「病児・病後児保育運営事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
11. 「地域子育て支援講座事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
12. 「子育てつばめメール配信事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
13. 「（仮称）子育て総合支援センター運営事業」・・・・・・・・・・・・ 22
14. 「縁結びサークル支援事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
15. 「若者就労支援事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
16. 「家庭教育推進事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
17. 「長善館史料館・分水良寛史料館活性化事業」・・・・・・・・・・・・ 26
18. 「子どもの体力向上サポート事業」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

## IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって・・・・・・・・・・・・ 29

## I はじめに

### 1. 点検・評価の目的

市民に信頼される公正で透明、簡素で効率的な教育行政の実現を図るため、燕市教育委員会は、毎年、主要な施策及び事務事業の取組状況について点検評価を行い、課題を明らかにし、今後の方向性を検討しています。

平成26年度は、燕市総合計画に掲載されている教育委員会関係の5つの施策のうちからそれぞれの施策の具体化を図る20の事業を対象に点検及び評価を実施しました。

本市には幼稚園3園、こども園2園（私立1園含）、保育園23園（私立5園含）、小学校15校、中学校5校のほか、児童館・児童クラブ等の児童福祉施設、公民館や体育館等の社会教育施設があり、保護者や地域の皆さん、ボランティアなど、多くの方々に支えられ、教育活動を実践しています。

教育委員会活動及び実施事業の効果を明らかにすることにより、新しい取組が生まれます。それを発信し、広げていくことでより燕市の教育の実現に向けた取組へとつなげていきたいと考えております。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員に委任された事務を含む。）の管理及び執行について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 【5つの施策】

- ① 燕らしい特色のある教育の推進
- ② 教育環境の向上
- ③ 子育て支援の充実
- ④ 生涯学習・文化活動の充実
- ⑤ スポーツを通じた健康づくり活動の推進

### 2. 教育行政評価委員

(敬称略)

氏名	住所	職業	備考
委員長 赤坂宗道	燕市新堀2137	僧侶	元県立高校校長
副委員長 藤沢達博	燕市小池5460	会社役員	燕市国際交流ボランティア登録者
委員 濱田隆之	燕市富永59	会社員	燕弥彦PTA連絡協議会会長

### 3. 点検・評価の実施状況

全ての予算事業とその上位目標である施策について調書を作成し、見直しや改善に向けて、自己評価を行い、平成27年度に向けての取組状況を示し、その中から20事業を評価委員より選定いただき、評価を行っていただきました。

開催日	出席者	会議内容
平成26年 12月11日(木)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員9名	・主要事業及び評価説明、委員からの点検評価事業の選定作業
平成26年 12月22日(木)	委員3名、教育委員会各課長及び事務局職員3名	・事業評価作業
平成27年 1月19日(月)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員9名	・事業評価作業
平成27年 2月16日(月)	委員3名、教育次長1名 教育委員会各課長及び事務局職員8名	・報告書取りまとめ

## Ⅱ. 教育委員会の事業一覧表

### 1. 平成26年度の教育委員会の主要事業一覧

課名	No.	事業名	事業概要
学校 教育 課	1	子どもを育む推進事業	「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を受け、各学校での取組みとともに、市内中学校区単位での「絆づくり集会」を通して、いじめ根絶に対する意識の高揚を図り、学校・家庭・地域での絆づくりを推進し、いじめの未然防止につながる社会性（自己肯定感・人間関係づくり能力・規範意識等）の育成を図る。
	2	『燕長善タイム』実施事業	児童の集中力や学習意欲を高め、学校における生活リズムを培うとともに、生徒の家庭学習への取組を促す。
	3	燕ジュニア検定事業	各小学校で社会科や生活科、総合的な学習の時間などの学習資料や燕長善タイムの教材としてジュニア検定問題集の一層の活用を推進するとともに、年1回、検定を実施する。
	4	新潟大学教育学部とのパートナーシップ事業(国語・英語)	教育学部の教授(准教授)による最新の学術理論にもとづいた授業実践を市内の小中学校で展開する。平成24年度よりパイロット校で実施している。市内各校へ研修内容を広めるために、小学校国語2校、中学校は国語担当者会議の中で各6回(合計18回)指導していただく。英語は、英語担当者会議と授業参観で合計24回実施し、指導いただく。
	5	中学校学力向上対策プロジェクト	平成25年度は学力向上(中学校数学)対策プロジェクトとして実施した。平成26年度は中学校国語・数学・英語に拡充して実施した。平成27年度も中学校国語・数学・英語で各学校の担当者を招集し担当者会議を行い、学力向上のための取組を推進する。

課名	No.	事業名	事業概要
学校 教育 課	6	中学生リーダー育成「燕キャプテンミーティング」事業	子どもたちがみんなで協力し合いかつ、学校の枠を超えたプログラムを組むことにより、リーダーとしての資質を養う。
	7	長善館学習塾事業	かつて長善館で学んだ方の中から政治家や学者、医師などが輩出されたように、本事業では様々な講師から話を聞き、勉強し、様々な体験活動を行うことを通して、思考力、創造力、コミュニケーション能力を身に付けることによりリーダーとしての資質を養い、未来の燕市を担う子どもたちの育成をする。
	8	小中学校教職員研修事業	平成 25 年度整備した研修関係事業を体系化し、研修内容を充実させ、教職員の資質向上を図る。
	9	スポーツエキスパート活用事業	運動部活動に熱心に取組み、競技力の向上を目指している中学校に優秀な外部指導者（カポ-ワヰカ-ト）を派遣し、運動部活動の振興と地域社会の連携を促進することを目的とする。あわせて教職員の負担軽減も図る。
	10	姉妹都市子ども交流事業(旧海外派遣事業)	近年、国際化が進む中で国際理解や国際交流の必要性が高くなってきている。燕市が学校教育の重点として掲げる人間性豊かで生きる力のみならず子どもを育てるために、姉妹都市との市民間の人的、文化的相互交流を行う。お互いの地域の歴史や特色を学んだり親善を深めたりすることで、ふるさとへの愛着や誇りをもつとともに、コミュニケーション能力を養い、リーダーとして未来の燕市を担う人材を育成する。
	11	教育指導費（標準学力検査等の実施）	学力の実態を把握し、改善に向けた基礎資料を得るため、NRT（全国標準学力検査＝相対評価法による学力検査）、CRT（標準学力検査＝絶対評価法による学力検査）、QU（児童生徒の学級生活満足度調査）を行う。 市内児童生徒の「全国学力調査」の正答率を県及び全国平均以上にする。
	12	Jack & Betty プロジェクト	幼・保・小・中の一貫した英語教育により、海外で活躍したり外国との交流を推進したりできる、燕市の将来の発展に貢献する人材を育成する。また、英語教育に関わる教員研修の場として、実践中心の研修に継続的に参加してもらい、資質の向上を図る。 中学校区での小中連携を推進して、燕市の特色ある英語教育の定着を図るとともに、Jack&Betty 教室を開催し、希望者を対象に、土曜日の午後等を活用し、英語の力をさらに伸ばす機会を充実させる。
	13	校外学習推進事業（小学校費）	児童が生活地域を総合的に広く、深く理解するとともに、地域の歴史、産業、文化財、地形等を効果的に理解するために小学校が実施する校外学習等が円滑に行われるよう支援する。
	14	校外学習推進事業（中学校費）	授業の一環として実地で見学・体験する校外学習の時間が、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てるうえで重要な役割を果たすことから、中学校が実施する校外学習を支援する。
	15	地域に根ざす学校応援団事業	学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、教員が子どもと向き合う時間を拡充するとともに、子どもが地域の大人とふれあうことを通して「生きる力」を育成する。
16	学習支援充実事業	小・中学校に学習支援員を配置し、ICT 機器を用いた授業や通常学級に在籍する個別の支援が必要な児童生徒に対する学習支援を行う。	

課名	No.	事業名	事業概要
学校 教育 課	17	別室登校児童生徒学習支援員配置事業	学習に対する不安や人間関係に対する不安等から、登校はできるが教室に入れず、別室へ登校する生徒に対して学習を保障し、学級への復帰を促す。
	18	学校図書館充実事業	図書館管理システムの導入や専従職員の配置により、適正な蔵書管理や子どもたちの読書傾向の把握も可能となり、蔵書検索の簡単化により、用途にあわせた図書の紹介や学校図書館や図書を活用した授業を推進する。また、新刊図書を購入し、蔵書充実を図る。これにより子どもたちの読書の機会を増やし、児童生徒の心を耕しながら、読解力の向上を目指す。
	19	教育振興扶助費（小学校費）	経済的な理由により就学困難な小学校の児童の保護者及び学校教育法施行令第 22 条の 3 の障害の程度に該当する児童・特別支援学級に在籍する児童の保護者に対し、学用品費等の学校で必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減させ、児童が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、小学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が児童の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	20	教育振興扶助費（中学校費）	経済的な理由により就学困難な中学校の生徒の保護者及び学校教育法施行令第 22 条の 3 の障害の程度に該当する生徒・特別支援学級に在籍する生徒の保護者に対し、学用品費等の学校で必要な費用の援助を行うことにより、経済的な負担を軽減させ、生徒が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、中学校でかかる費用の一部を援助することにより、保護者が生徒の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。
	21	笑顔で入学支援事業	就学時健康診断の機会を捉え、保護者の入学に対する不安を解消し、小学校入学を円滑にするため、笑顔で入学支援事業を実施する。学校の希望する講師を招いて子どもの入学に向けた保護者への講演会を実施するとともに、「燕市の学校教育のようす」など、教育委員会の取組も説明する。
	22	楽器整備事業【学校備品購入費】	児童生徒の音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養うため、配当予算では購入が難しい高額な楽器を整備することで、市内小中学校全体の音楽活動の充実を図る。（グランドピアノの更新ほか）
	23	理科教育等設備整備事業（小学校費）	新学習指導要領では、理科の授業時数が増となり、これに伴う指導内容の充実が求められ、観察・実験などの学習活動の大幅な拡充が必要となっている。児童の科学的な知識や技能を習得させるとともに、問題解決能力を養うため、小学校の理科教育設備（理科・算数の備品等）の整備を行う。
	24	理科教育等設備整備事業（中学校費）	新学習指導要領では、理科の授業時数が増となり、これに伴う指導内容の充実が求められ、観察・実験などの学習活動の大幅な拡充が必要となっている。生徒の科学的な知識や技能を習得させるとともに、問題解決能力を養うため、中学校の理科教育設備（理科・数学の備品等）の整備を行う。
	25	燕吉田地区小中学校教育用 PC 賃貸借	平成 27 年 3 月 10 日で燕吉田地区小中 16 校のパソコン教室内の機器等の賃貸借が満了を迎える。機器等の無償譲渡の部分は不具合に対応できるようにして継続して使用し、契約更新が必要な教育ソフト等を更新する。また、今後のパソコン教室の在り方について ICT 教育推進協議会で検証を行う。
	26	学校備品購入費（楽器整備事業を除く）	学校配当予算では購入できない高額備品を学校配当予算に加えて購入する。また、H28 の学級増等に対応した備品もあわせて購入する。

課名	No.	事業名	事業概要
学校 教育 課	27	教職員用 PC 整備	セキュリティをしっかりと保ったうえで、教職員の先生方が使いやすく、教委と学校間の連絡を円滑化させ、連携強化を図り、あわせて校務の効率化や情報共有の容易さにより教職員の多忙化の解消につなげ、児童・生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。
	28	教育指導費（教科用図書整備）	教科書の改訂に伴い、教師用教科書及び教師用指導資料を整備する。
	29	ICT教育推進事業	子どもたちの学習意欲を引き出すとともに、基礎学力の定着を目指し、わかりやすい授業を展開するため、プロジェクターもしくはデジタルテレビ（モニターとして）、書画カメラ、パソコンを整備する。また、LANの整備がされていない学校について無線LANの整備を行う。これらを計画的に行っていくために、ICT教育推進協議会で、提言をまとめる。
	30	科学教育推進事業	燕・弥彦科学教育センターや長岡科学技術大学と連携し、理数教育を中心とした研修体制を充実・強化することで児童・生徒、教師や市民の科学に対する意識向上を図る。
	31	子ども夢づくり事業	燕市の未来を担う子どもたちを育成することを目的に、子ども夢基金を活用し、子どもたちの夢にかかわる事業等の実施を支援する。
	32	学校給食運営費（学校給食用食器更新）	経年劣化した学校給食用食器等を入替え、衛生的で快適な給食環境を整える。平成 27 年度は箸を購入する。
	33	学校施設雨漏り修繕工事	雨漏り箇所を修繕し、施設の長寿命化を図る。
	34	小池小学校駐車場整備工事	管理員により砂利の敷きならし補修を行ってきたが、輪だち掘れや雑草の除草などの維持管理に苦慮している。駐車場を舗装し利用者の利便性の向上を図るとともに維持管理が容易にできるようにする。
	35	燕西小学校屋内運動場天井耐震改修工事	吊天井を撤去、同時に照明器具のLED化、換気設備の増設、屋内運動場入口吊天井部分についてもあわせて落下防止対策を講じる。また、便所設備の床のドライ化、洋式便器化及び多目的トイレの機能強化として、オストメイト及びベビーシート等バリアフリー対応設備に変更工事を行い、緊急時の避難所としての活用、安心安全な学習環境の確立を目的とする。
	36	吉田小学校改築事業	既存屋内体育館解体工事及び外構整備工事を行う。
	37	分水小学校外壁改修工事	平成 26 年度に引き続き、管理・特別教室棟（北面）及び普通教室棟のバラベット部分以外の外壁、ベランダ及び軒下など不良箇所を改修する。
	38	分水小学校外壁改修工事【分水小学校外壁改修事業仮囲い設置工事】	児童・教職員の安全確保のため仮囲いの設置撤去を行う。（平成 27 年度は撤去作業）
	39	小中川小学校渡廊下改築事業	北側校舎特別教室棟から屋内運動場へ通じる渡廊下が老朽化し危険なため、改築により安心安全な学習環境を図る。
40	吉田中学校排水設備改修工事	公共下水道への接続による排水環境改善を図る。	

課名	No.	事業名	事業概要
学校教育課	41	分水中学校駐輪場改築	改築工事の実施により安全な環境整備を図る。
	42	燕中学校剣道場天井耐震改修工事	剣道場を耐震天井に改修とあわせ照明器具のLED化、空調機器等の更新を行う。また、屋内運動場内照明器具及び天井昇降式バスケットゴールについても落下防止対策をあわせて講じ、緊急時の避難所としての活用、安心安全な学習環境の確立を目的とする。
	43	小池中学校特別教室棟改築・屋内運動場大規模改造事業	昭和57年度に建設された新耐震の建物であるが、築30年を超過し、床の老朽、雨漏り、照明照度不足に加え、トイレ環境の悪化等が著しいことから、大規模な老朽改修工事が必要となっている。 平成27年度は、特別教室棟の改築工事、旧プール解体工事を行う。
	44	東部学校給食センター建設事業	学校給食法に定められる衛生管理基準、アレルギー食に対応し、震災時の備蓄も兼ね備えた、安全安心な学校給食を提供できる給食施設を建設する。 平成27年度は、基本設計、実施設計を行う。
子育て支援課	45	病児・病後児保育運営事業	小児科医院に併設した病児保育室「あおぞら」において、病気の児童を一時的に保育し、安心して子育てができる環境を整備し、子育てをする保護者を支援する。
	46	私立保育園障がい児保育事業補助金	私立保育園における障がい児の保育を推進するため、障害児を受け入れている私立保育園に対して保育士の加配に補助を行うことにより、障がい児の処遇の向上を図る。
	47	(仮称) 燕西こども園整備事業	燕西幼稚園及び燕保育園を統合して、現在の燕保育園を増築・改修して(仮称) 燕西こども園にする。(定員130人)
	48	「つばめおはようタイム」の実施事業	幼稚園・保育園児を対象に、子どもたちの生活のリズムを整え、集中力を育成する。
	49	市立保育園保育室冷暖房設備設置事業	エアコンが未設置の3歳児室に空調設備を設置し、安全な保育環境を提供し、園児の健康管理を図る。
	50	地域子育て支援講座事業	子育てでの不安や悩みを分かち合うことで、子育ての負担を軽減するとともに、同世代の子どもを持つ親同士のつながり・交流を促進する。
	51	(仮称) 燕西児童クラブ整備事業	燕西小学校区内で運営している児童クラブの老朽化に加え、施設面積が狭くガイドラインに沿った健全育成が難しい現状にあることから、平成28年度に空き園舎になる燕西幼稚園を児童クラブとして整備し、移転することにより、放課後児童の健全育成を図る。
	52	子育て支援金支給事業	次代を担う子どもたちの健やかな成長を願うとともに、子育て家庭を支援し、魅力ある明るく住みよいまちづくりに寄与することを目的として子育て支援金を支給する。
	53	児童クラブ運営費補助金	定員オーバーに近い状態の解消を図るため、実施団体への運営費補助を行い、児童の健全育成を図る。
	54	子育てつばめメール配信事業	相談窓口や支援制度、イベントなど子育てに役立つ情報を登録した保護者の携帯電話へメール配信することにより、子育てを応援し市の子育て支援に関する事業や施設などを有効に活用してもらう。
	55	(仮称) 子育て総合支援センター運営事業	子育て相談支援、情報交換、交流の場の機能のほか、調理室を設けて食育への関心を高めるとともに、サークル活動スペースを設け子育て支援団体を育成する。また、ファミリー・サポート・センター機能も併設する。

課名	No.	事業名	事業概要
社会 教育 課	56	縁結びサークル支援事業	定住人口の増加を図るため、結婚を支援するサークルの活動を支援する。
	57	第2次生涯学習推進計画策定事業	平成26年度に策定した基本構想・基本計画素案を踏まえ、市民等で組織する生涯学習推進協議会と協働で生涯学習推進計画を策定する。(印刷製本 冊子:500部、概要版6,000部)
	58	指定管理者による図書館運営事業	多様な市民ニーズに対応するため、H26年度に引き続き指定管理者であるTRCへ図書館の管理運営を委託する。
	59	若者就労支援事業	平成22年10月から三条地域若者サポートステーションより、週1回出張相談を行っていただいているが、支援体制の違いにより三条市へ直接行く方が多いため、燕市で支援できる体制を整備する。
	60	公民館施設使用料等検証事業	公民館施設使用料等について、庁内行政改革推進本部において作成される見直し基準を基に、関係機関から意見を聞きながら受益者負担のあり方を検討する。
	61	家庭教育推進事業	「心の燕市8つのチャレンジ」を地域・家庭において定着・推進するために開催する家庭教育講座及び食育講座の講師謝礼金の一部を助成する。
	62	つばめBOOXサポーター育成事業	読み聞かせボランティアのすそ野を広げるため、絵本作家や児童文学者などによる講演会等を実施する。また、ボランティア団体の連携やスキルアップを図るため活動見学会や情報交換会を行う。
	63	エコブックつばめ事業	平成26年度に引き続き小池公民館(燕第一まちづくり協議会)を実施地区として図書への寄贈受け入れと配布を行う。
	64	市民教養講座事業	高校生以上の市民・在勤者を対象に自己啓発・相互学習意欲を啓発し、生涯学習の基礎づくりを推進するため、各種講座を開催する。
	65	(合併10周年記念)第10回燕市美術展覧会開催事業	第10回燕市美術展覧会を合併10周年記念事業に位置付け、10回特別賞の創設、記念講演会の開催を通じ、出品者の増加、美術に対する市民啓発、美術人口の増加を図る。
	66	つばめっ子かるた普及推進事業	ふるさとへの誇りと愛着を育むための郷土学習及び子どもたちの健全育成の一環として、つばめっ子かるた大会の開催等を通じてかるたの普及を促進する。
	67	長善館史料館活性化事業	入館者増を図るため、広域近隣館、市内3史料館との協調、連携体制を拡張し、さらなる相乗効果を図る。また、展示方法を改良するとともに、筑波大学との連携事業を進める。
	68	分水良寛史料館活性化事業	入館者増を図るため、広域近隣館、市内3史料館との協調、連携体制を拡張し、さらなる相乗効果を図ることに加え、展示方法を改良する。
	69	文化財保護事業(「原田家住宅と茶室」の保存について)	後世に受け継ぐべき文化財として、保存し活用を図る。
	70	文化財保護事業(文化財保管のあり方)	資料の保管場所を確定したのち、資料の移動計画を定め再整理を進める。
	71	文化活動支援事業	自主企画公演・展示事業等を行う団体が、自立し継続的に文化活動ができるよう、3年を限度に助成金を交付する。(平成27年度:2件予定、平成26年度:2件見込み)
72	文化会館自主事業	市民ニーズに即した、優れた舞台芸術作品の提供や、市民参加型の舞台芸術の推進により市の芸術文化を高める。(平成27年度:市内小学校合同演劇鑑賞会等8事業予定)	

課名	No.	事業名	事業概要
社会 教育 課	73	ESCO事業	文化会館・中央公民館においてESCO事業を導入し、民間事業者の専門的なノウハウを活かした省エネ化の推進による、環境負荷の低減、並びに施設維持管理費の削減を図る。
	74	子どもの体力向上サポート事業	子どもの体力向上を目指し、体力づくりサポートプログラムを実施。平成27年度以降はミスノ（株）で開発のヘキサスロンを導入。
	75	東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流事業	ヤクルト球団に關係する自治体4市において軟式少年野球交流大会を沖縄県浦添市において開催予定。
	76	東京五輪キャンプ地誘致事業	2020年開催の東京オリンピック、パラリンピックの他国からの事前合宿を誘致することで、日本一輝いている燕市の配信を図る。
	77	中央公民館耐震改修事業	耐震改修、外壁改修、屋上防水、内部改修、電気設備改修、衛生設備改修等を行う。
	78	中央公民館増築事業	燕市勤労青少年ホームを解体し、中央公民館に備蓄庫、調理室、陶芸教室、軽運動場機能等を有した施設の増築（RC造2階建 延べ床面積800㎡）に係る設計業務委託を行う。
	79	吉田勤労青少年ホーム耐震改修事業	RC造2階建 延べ床面積975㎡ 耐震改修、空調設備改修、電気設備改修、衛生設備改修等の工事に係る設計業務委託を行う。
	80	燕市立図書館大規模改修（I期）事業	内装工事、空調設備改修、電気設備改修、衛生設備改修等の工事を行う。
	81	小中川公民館耐震改修事業	耐震改修、空調設備改修、電気設備改修、衛生設備改修等の工事に係る設計業務委託を行う。
	82	南公民館耐震改修事業	耐震改修、空調設備改修、電気設備改修、衛生設備改修等の工事を行う。
	83	分水良寛史料館耐震改修事業	耐震診断を実施する。
	84	B&G海洋センター 暖房機撤去事業	老朽化した融雪用暖房機を撤去する
	85	吉田テニスコート暴風ネット設置事業	野球場側、線路側に暴風ネットを設置することにより、砂の飛散を抑制し競技への悪影響を防止する。
	86	分水多目的屋内運動場 屋根・外壁塗装修繕事業	分水多目的屋内運動場1号棟の屋根・外壁の塗装工事を行い、施設の長寿化を図る。
	87	粟生津体育文化センター耐震改修事業（トイレ洋式化）	体育館の耐震改修工事を行うとともに、利用者の利便性を高めるため、トイレの洋式化を図る。
	88	分水武道館耐震改修事業	耐震、内部、塗装、電気設備、トイレ洋式化改修等の設計業務委託を行う。
	89	分水プール改修事業	プール槽FRP塗装、ろ過機改修工事等を行う。
	90	吉田体育センター排水設備改修事業	公共下水道に接続し、施設周辺の公共水域の水質保全、清潔で快適な生活環境を創出する。
	91	燕市民プール管理棟改修事業	管理棟耐震改修設計業務委託を行う。
	92	スポーツパーク改修事業	管理棟外装改修・トイレ洋式化工事を行う。
93	スポーツランド燕体育館外装改修等事業	体育館外装改修、トイレ洋式化、グラウンド改修等の設計業務委託を行う。	
94	燕東小学校ナイター設備撤去事業	ナイター設備撤去工事を行う。	
95	吉田プール排水設備改修事業	公共下水道に接続し、施設周辺の公共水域の水質保全、清潔で快適な生活環境を創出する。	
96	つばくろ運動広場内野改修事業	野球場・ソフトボール場内野改修工事を行う。	

Ⅲ 点検・評価の結果（平成26年度評価対象事業）

「燕らしい特色ある教育の推進」

点検項目	子どもを育む推進事業
26年度達成目標	「いじめ見逃しゼロ 県民運動」を受け、各学校の取組と共に、市内中学校区単位での「絆づくり集会」を通して、いじめ根絶に対する意識の高揚を図るとともに、学校・家庭・地域での絆づくりを推進し、いじめの未然防止につながる社会性(自己肯定感・人間関係づくり能力等)の育成を図る。
目標の達成状況	全中学校区での絆スクール集会を通して、児童生徒一人ひとりのいじめに対する意識を高め、いじめを許さない絆づくりと社会性の育成を図ることができた。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 燕市子どもを育む推進協議会における意見交換</li> <li>② 悩み相談ダイヤルカード配付</li> <li>③ 全中学校区での「絆スクール集会（子どもフォーラム）」の開催</li> </ul>
自己評価	<p>小学校6年生と中学校1年生または2年生が、交流する機会を通じて中1ギャップの予防・緩和を図ることができた。</p> <p>燕市いじめ防止基本方針に基づき、「いじめ問題対策連絡協議会」の役割を「燕市子どもを育む推進協議会」が担うことになり、推進協議会に新しく児童相談所から委員を迎え、学校・家庭・地域の連携体制を強化するための情報交換を進めることができた。</p>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「燕市子どもを育む推進協議会」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進協議会内においては、問題内容が共有されているが専門的で細分されている。子どもたちが生活している場面から、推進協議会での方針がだんだん離れていくような感じがする。</li> <li>・推進協議会での話合いの方向性と、家庭や地域との具体的なつながりが分かりにくい。どのような連携が必要なのか明確化していただき、推進協議会での方針が、子どもたちの実際の生活場面で活用されるような、伝達方法を配慮いただきたい。</li> </ul> </li> <li>② 悩み相談ダイヤル <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、家庭での親の影響を受けやすい。学校でのいじめをなくすことは大切であるが、いじめに対応できるような人間形成の対応についても検討いただきたい。</li> <li>・いじめは学校だけの問題ではない。もっと家庭や地域に対して、いじめ未然防止の意識の積極的な啓蒙が必要と思われる。</li> </ul> </li> <li>③ 子どもフォーラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の鑑賞会後の意見交換については、子どもたちの意見が事業の本来の目的から離れることも考えられるので、事前準備をしっかりといただきたい。</li> </ul> </li> </ul>

<p>今後の方向性</p>	<p>① 推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協議会での意見が、子どもの生活場面で活用されるよう、校長会等を通じて学校へ指導したり、家庭に周知したりしていきたい。</li> <li>いじめ防止のための方策を家庭にも周知していき、未然防止を図っていく。いじめの兆候が見られたら、すぐに学校や関係機関に連絡をとってもらするなど、家庭と連携した即時対応を行っていきたい。</li> </ul> <p>② 悩み相談ダイヤル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導主事・嘱託指導主事による個々のケースに応じた相談を行っていく。</li> <li>適応指導教室指導員・心の教室相談員との連携を図り、児童生徒・保護者へ支援に努めていく。</li> <li>道徳の教科化が決まった。その中で、いじめについて学ぶ内容もあるので、道徳の指導を中核にした指導を各学校で行っていきたい。</li> </ul> <p>③ 子どもフォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校児童生徒が意図的に関わり合う機会を設け、他校・異年齢交流を通じての「人と関わる意欲」の向上を今後も引き続き、図っていく必要がある。</li> <li>意見交換については、中学生の代表者と事前に打合せを十分行っていく。</li> </ul> <p>④ 市政 10 周年記念中学生観劇会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 27 年度新規の取組として、いじめについて考えてもらう機会とするため、中学生を対象に観劇とパネルディスカッションを実施する予定。</li> </ul>
---------------	---

【所管：学校教育課】

### 燕らしい特色ある教育の推進

点検項目	燕キャプテンミーティング事業
26年度達成目標	<p>講師の話から部活動のリーダーの役割について学ぶことにより、部活動が体力面だけでなく、コミュニケーション能力や知力も鍛えるものであること、その中で人間形成されていくことを理解し、燕市の教育の目指す「知徳体」のバランスのとれた子どもを育てる。</p>
取組の概要	<p>子どもたちがみんなで協力し合い、かつ、学校の枠を超えたプログラムを組むことにより、リーダーとして力強く歩んでいける自律する力と優しさやいたわりの心をもって学校生活で「貢献」できるリーダーの育成を図ることができた。</p> <p>参加者のべ 96 名の中学校 1・2 年生全員が「よかった」「まあまあよかった」という肯定的評価をしていた。部活動のキャプテンを中心に、リーダーとしての資質の向上を図ることができた。学校や種目の枠を超えた連携にもつながった。また、講師の話から部活動やリーダーの役割について考えるよい機会となった。</p>

<p>評価委員の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもよい事業なので、参加対象者を増やしてほしい。</li> <li>・文化系のキャプテンの参加も必要である。</li> <li>・男子生徒の申し込みが少ない。男子生徒を育ててほしい。</li> <li>・研修として実施するには、しっかりとしたカリキュラムで実施してほしい。レクリエーション等も取り入れて、参加する魅力があるプログラムを検討してほしい。</li> <li>・開催時期については、学校現場と検討してほしい。</li> <li>・効果が一番現れやすい実施時期はいつなのか、学校現場と相談する必要がある。夏休みの終わり頃を検討してもよいと思われる。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社ミズノを通した外部講師のほか、燕市出身の講師を依頼するなどして燕らしさをより出していきたい。</li> <li>・平成 26 年度は、文化系の部活の部長も参加している。各校の取組等を情報交換する場やレクリエーション的な要素を含む活動も行ってきた。平成 27 年度も同じような形で実施していく予定である。</li> <li>・全中学校が連携して大きな取組を行ったり、よさを共有したりして、部活動のリーダーとして、より元気な子どもたちを育てる事業にしていく。</li> <li>・開催時期については、夏休みの終わりについても検討したいが、9月のはじめに中学校の体育祭が計画されているため、参加が難しいとのことである。また、実施日数を 2 日にしてほしいとの要望もある。実施時期や日数については、今後学校との調整を図りながら、一番成果の上がりやすい実施の仕方を考えていきたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】

**「燕らしい特色ある教育の推進」**

<p>点検項目</p>	<p>スポーツエキスパート活用事業</p>
<p>26年度達成目標</p>	<p>生徒がスポーツに親しみ、体力の向上を図るとともに、教員の負担を減らし、多くの生徒と向き合う時間を確保するため、地域スポーツ指導者を各学校に派遣する。</p>
<p>目標の達成状況</p>	<p>学校からの希望により、外部指導者 1 人の派遣回数を年間 30 回とし、1 回の指導時間を 2 時間程度として派遣することができた。</p>
<p>取組の概要</p>	<p>中学校全校に外部指導者の派遣について希望調査を行い、希望に合わせて新潟県教委へ申請、県教委からの決定を受け、外部指導者を各学校に派遣する。</p>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望の部活動については、子どもたちの活動状況や先生方の配置により大きく変わるため、再度必要な部活動を精査し、外部指導者を派遣していかなければならない。</li> </ul>

評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算も人員も充実してほしいと考えている。</li> <li>・子どもたちが一生懸命活動している。指導者は結果を出してやりたい思いがあるので、外部との協力はよいことだと思われる。</li> <li>・外部指導者は教員とよく話し合いをして、共通した指導をしてほしい。学校とミスマッチがないようにしっかりした指導をお願いしたい。</li> <li>・指導者に対して、事前指導をしっかりしていただき、子どもたちの悩み、心のケア等についても指導をお願いしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望した学校に外部指導者を配置できるように市教育委員会としても努力していきたい。</li> <li>・子どもたちが部活動を行う際に、外部指導者による専門的な指導を行い、競技力を向上させていきたい。あわせて教員の負担を減らし、生徒と向き合う時間を確保したい。</li> <li>・外部指導者に、事前に子どもたちの心を大切にしている指導や当該校の指導者と連携した効果的な指導を行うよう、事前指導を行う予定である。</li> </ul>

【所管：学校教育課】

### 「教育環境の向上」

点検項目	教育指導費（標準学力検査等の実施）
26年度達成目標	「全国学力・学習状況調査」「NRT」「CRT」等において測定される市内児童生徒の正答率を県および全国平均以上にする。
目標の達成状況	全国学力・学習状況調査では、燕市の児童生徒の学力は改善傾向にあり、小学校は国語A、中学校国語A・Bを除き、全国値を上回った。引き続き、学力実態を把握し、改善に向けた基礎資料を得る必要がある。
取組の概要	①NRT(全国標準学力検査＝集団規準準拠検査) <ul style="list-style-type: none"> <li>・小2～小4は、国語・算数、小5・6は、国語・算数・理科、中1は、国語・社会・数学・理科、中2・3は、国語・社会・数学・理科・英語を実施。</li> </ul> ②CRT(標準学力検査＝目標規準準拠検査) <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1・2に数学・英語を実施。</li> </ul> ③Q-U(児童生徒の学校満足度を図る尺度) <ul style="list-style-type: none"> <li>・小3以上の児童生徒に年1回実施。</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した調査や検査の結果分析を生かし、授業改善が進んでいると評価する。</li> <li>・学級の間人間関係によって学力の定着に大きな差が見られることから、Q-U検査を活用した人間関係づくりをより一層行っていく必要がある。</li> <li>・学校生活の満足度、学習意欲、友人関係等については、全国平均よりよいと思われる。</li> </ul>

<p>評価委員の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果を見るのであれば、三つの検査は有効である。</li> <li>・ 目標指標としてテストは必要と思われるが、点数を上げるための授業にならないでほしい。</li> <li>・ 平均点以上の成績の成果になるよう、児童生徒の指導をお願いしたい。</li> <li>・ テスト、テストとやっているが、本当にこれでよいのか。児童生徒の基礎・基本の定着を図るとともに、学んだことを活用できるような取組を検討していただきたい。</li> <li>・ テストのための学力になっていないか危惧している。本当の人間力を育てることにつながっているか。百人一首に取り組む、読書活動に力を入れる、良寛様や長善館を生かした活動を行うなど、燕市全体での特色ある取組を期待したい。</li> <li>・ 高校入試の制度が変わった。小手先の学力だけでは対応できないようになってきている。基礎力だけでなく応用力を育てる指導をしていただきたい。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査や NRT 等の学力測定の結果を授業改善や補充指導に活かしていく必要があるため、今後も実施したい。</li> <li>・ 検査結果で得た基礎資料を参考に中学校学力向上対策プロジェクト(国語・数学・英語)の充実を一層図っていくことで、平均より下の児童生徒にも確かな学力、学んだことを活用できる力、変更された高校入試制度に対応できる力が付くよう、日常の授業の充実を図っていきたいと考えている。</li> <li>・ 指導主事の学校訪問や教員研修講座の実施により授業改善を図っていききたい。また、市教育委員会の事業を推進していくことで、燕市の特色ある取組を行っていききたいと考えている。</li> <li>・ 市内小中学校の教員が抱える課題や困り感に応じた助言・指導を行っていきながら、「子どもたち一人一人に確かな学力をはぐくむ授業」の実現を図っていきたい。その中で、思考ツールを活用した思考力、表現力、問題解決能力の育成を視野に入れた授業改善についても助言・指導していききたい。</li> <li>・ 引き続き Q-U 調査を実施し、分析結果をいじめ・不登校等の予防改善や学力向上に生かしていききたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	地域に根ざす学校応援団事業
26年度達成目標	学校の様々な活動を地域のボランティアが支援することで、教員が子どもと向き合う時間の確保や子どもが地域の大人とふれあうことにより「生きる力」の育成につなげる。
目標の達成状況	地域に根ざす学校応援団事業については、各校の取組が充実してきており、教員が子どもと向き合う時間の確保や子どもが地域の大人とふれあう時間が増えてきている。反面、地域コーディネーターが十分機能していない学校も見られる等、取組を見直す必要性も出てきている。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校ボランティアの支援による教育活動の充実</li> <li>②地域の教育力、社会教育の成果を学校で活用</li> <li>③地域の絆を深め、地域の教育力を活性化</li> <li>④地域住民による放課後等における学習支援活動の充実</li> </ul>
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燕南小学校の活動が、文部科学大臣表彰を受けるなど、各校の取組は、全体として充実してきている。反面、学校間格差も見られることから、各校の地域コーディネーター間の連携を強化していきたい。</li> <li>・④については、平成25年度5校の取組にとどまっていたが、平成26年度は、実施校が16校に増加してきている。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コーディネーターの方々は非常に大切である。地域との連絡を密にしてほしい。</li> <li>・地域によっては、「地域コーディネーター」が認知されていない。もっと活動についてPRしていく必要があると思われる。</li> <li>・「学校が地域に何ができるか」「地域が学校にどのように関わられるか」という視点で地域と学校が相互に関わり、活動に取り組むことのできる仕組みづくりを推進する必要がある。</li> <li>・活動に必要な予算の確保をお願いしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の取組が軌道に乗ってきた反面、学校間格差が見られるようになってきた。よりよいシステムづくりや、よりよい取組の共有が求められている。</li> <li>・平成27年度は、年2回実施する「地域に根ざす学校応援団事業研修」の充実を図っていく。文部科学大臣表彰を受けた燕南小学校の取組の発表を基に情報交換を行ったり、参加者が活動上の悩みや改善策を話し合うグループワークを行ったりしていくことで、よい取組を共有したり、問題点を改善したりしていく。その中で、地域と学校が相互に関わるよさを実感するための各校の方策についても共有し、システム化できるよう努めていきたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	別室登校児童生徒学習支援員配置事業
26年度達成目標	<p>中学校進学という大きな環境の変化等もあり、これまで抱えていた問題が表面化したり、新たな問題を抱えたりする子どもが入学を期に現れることがある。</p> <p>学習に対する不安や人間関係の躓きにより、登校はできるが教室に入れず、別室へ登校する生徒に対して、学習を保障し学級への復帰を図る。</p>
目標の達成状況	<p>別室登校する生徒にとって、学校に自分の居場所があり、自分一人ではなく、話を聞いてくれる人がいるということは大きな安心となっている。</p>
取組の概要	<p>教員の大規模校加配のない市内3中学校（燕北中・小池中・分水中）へ「別室登校学習支援員」を各1名配置し、登校しても教室に入れない生徒に学習の機会を保障するとともに、学級への復帰を支援する。</p>
自己評価	<p>学校へ登校し、教室以外の場所を選んだ生徒には、学校生活に適応させるための第1段として、登校が安定するまで過ごす「教室との架け橋の場」としての役割を担っている。</p>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が教室に戻っても負担なく過ごせるような学級の雰囲気醸成し、少しでもスムーズに学級への復帰が実現するようお願いしたい。</li> <li>・学級担任が、個人で生徒や保護者の支援を担う場合、限界があったり、固定観念に縛られたりする可能性が考えられる。学校全体で体制づくりが必要であり、そうすることで複雑・多様化した生徒のニーズに応じた支援が可能となると考える。</li> <li>・担当者だけでなく、チームで子ども・家庭を支えていくカリキュラムを全学校で充実させ、心の丈夫な子どもたちを育てていただきたい。</li> <li>・財源の確保も必要となるが、事業の一層の充実を望みたい。</li> </ul>
今後の方向性	<p>「別室」は、教室復帰に向かう「力」を蓄える重要な場所として位置づけ、学習支援のほか親子の心の安定や人間関係の広がりにつながる場としての役割を担えるようにしていきたい。そのためにも市内3中学校の配置体制の維持に努めたい。</p>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	教育振興扶助費（小学校費・中学校費）
26年度達成目標	<p>経済的な理由により、就学困難な児童生徒の保護者に対しては【就学援助費】として、学校教育法施行令第22条の3に規定する障害の程度に該当する児童・特別支援学級に在籍する児童の保護者に対しては【特別支援教育就学奨励費】として、学校で必要な費用の援助を行い、保護者の経済的な負担を軽減させ、児童生徒が支障なく義務教育を受けられるようにする。また、小・中学校で必要とする費用の一部を援助することにより、保護者が児童生徒の就学に必要な経費を滞りなく負担できるようにする。</p>
目標の達成状況	<p>援助を必要とする保護者に対して、適切に援助を実施している。</p>
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●就学援助費           <ul style="list-style-type: none"> <li>・援助を希望する保護者から、学校を通じて申請書を提出してもらい、内容を審査し、認定の可否を学校長及び保護者に通知する。</li> <li>・扶助費として、学用品、通学用品費・校外活動費・新入学学用品費・修学旅行費・生徒会費・PTA会費・学校給食費・医療費を支給。</li> </ul> </li> <li>●特別支援教育就学奨励費           <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に奨励費制度を周知し、学校を通じて受給希望調書等を提出してもらい、内容を審査し、支弁区分等を学校長及び保護者に通知する。</li> <li>・奨励費として、学用品、通学用品購入費・校外活動等参加費・新入学児童生徒学用品、通学用品購入費・修学旅行費・学校給食費・交通費を支給。</li> </ul> </li> </ul>
自己評価	<p>経済的な理由によって就学が困難な児童生徒の保護者に対して必要な援助を行うことにより、教育の機会均等を図ることができる。</p>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今の雇用・経済情勢を受け、本事業を必要とする市民のニーズは、増加傾向にあると考える。</li> <li>・経済的な理由で就学が困難にならないよう、援助を必要とする家庭を的確に把握するとともに、申請しやすい体制づくりにより、相互信頼の構築に努めてほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれの制度も、法令に基づき市が継続して実施すべき事業であるため、国の生活保護制度の見直しなども行われているが、文部科学省の今後の方針に基づき、援助体制の維持に努めたい。</li> <li>・就学援助制度の周知については、学校を通じて在籍する全ての児童生徒の保護者に対して、制度のお知らせ・申請書を配付している。また、広報紙・ホームページにより情報提供に努めている。</li> <li>・現在、学校と教育委員会の連携・情報共有により対象者の把握を行っており、今後も丁寧な対応に努めたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	ICT教育推進事業
26年度達成目標	<p>ICT教育の実践のため、ICT機器（プロジェクター・スクリーン・書画カメラ）を市内小中学校の全学級への整備が平成25年度完了したことを受け、「分かる授業」を実現し「確かな学力」の育成に資するため、機器の活用の促進を図る。</p> <p>今後の燕市全体のICT教育の方向性を協議するため、「燕市ICT教育推進協議会」を立ち上げ、平成27年12月をめどに報告書を取りまとめる。</p>
目標の達成状況	<p>燕市では、平成22年度よりICT機器（プロジェクター・スクリーン・書画カメラ）の整備を開始し、平成25年度には整備を完了し、活用は広まってきている。</p> <p>燕市ICT教育推進協議会及び同専門委員会を組織し、タブレットPC及び電子黒板を導入した吉田南小学校のEメール事業を検証するとともに、燕市全体のICT教育の方向性の検討に着手した。</p>
取組の概要	<p>リース契約満了により、各学校の教職員用パソコンの入替えを行い、使用可能なパソコンを市内小中学校の普通教室と学校図書館等へ再配備して、現在整備されているICT機器の有効活用を推進する。</p> <p>各学校の具体的な活用状況を検証し、学校現場の実態を踏まえた燕市全体のICT教育の方向性を定める。</p>
自己評価	<p>教師用パソコンを再利用して、市内小中学校の普通教室へ配備したことにより、既存のICT機器の活用の幅が広がっている。</p> <p>燕市ICT教育推進協議会及び同専門委員会を設置し、燕市全体の現状検証に着手した。</p>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の整備も発展途上にあり、ソフトの活用力を充実させてほしい。ハードを充実しても無駄にならないように、ソフト面をしっかりとさせてほしい。そのためにも先進校の視察やICT支援員の協力が重要と考える。</li> <li>・導入校で実績が上がっているのであれば、市内の全学校に整備をしていただきたい。</li> <li>・従来の授業のいいところも大切にしてほしい。教科の単位によって使う必要があるか、見極めも大切であると思われる。ICTを上手に使うことにより、充実したよい授業に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度、吉田南小学校での取り組みを燕市全体に広げるため、ICT教育推進協議会を設け、燕市の現状や課題等を洗い出し、今後のICT教育のあるべき姿を検証し、提言書の取りまとめを行う。</li> <li>・燕市ICT教育推進協議会専門委員会での議論・検討を通じて、ICT導入に際しての課題と授業実践における活用効果について共通認識を図り、先生方の指導の流れにフィットしたハードと必要なソフト選定を図りたい。</li> </ul>

【所管：学校教育課】



「教育環境の向上」

点検項目	燕西小学校屋内運動場天井耐震改修工事
26年度達成目標	文部科学省から平成 27 年度までに天井落下防止対策を講じなければならない施設の対象として体育館が該当したため、改修工事のための基本設計・実施設計業務を実施する。
目標の達成状況	目標達成
取組の概要	<p>吊り天井を撤去、同時に照明器具の LED 化、換気設備の増設、屋内運動場の入口吊天井部分についても落下防止対策を講じる。</p> <p>トイレ設備については、床のドライ化、洋式便器化及び多目的トイレ機能を強化し、緊急時の避難所としての活用と安心安全な学習環境の向上を図る。</p>
自己評価	<p>【評価】</p> <p>予定どおり実施し、次年度の取組につなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>平成 27 年度の完了に向けて、着実に事業を進める必要がある。</p>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適なトイレに改修していただき、学校生活が少しでもよくなる方法を検討していただきたい。</li> <li>・大規模改修時に併せて工事を行うのは理解できるが、工事計画が先延ばしになっていると聞いている。保護者や PTA が学校の改修について、教育委員会に要望できるシステムを検討いただきたい。</li> <li>・修理、修繕工事ではなく、水飲み場、トイレ等の改修について、配慮していただきたい。</li> <li>・学校施設の見回りを強化し、危険箇所を撤去するなどの対策をして、児童生徒が安全、快適に過ごせるようにしていただきたい。</li> <li>・子どもたちが学校生活を送るうえで「何に不便を感じているか」「何を求めているか」、アンケートを行うなど、子どもたちの意見を取り入れる機会をつくっていただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設整備計画に基づき、児童生徒の安全確保のため学校施設の改修を行い、利用者の利便性向上を図っていきたい。</li> <li>・工事がいろんな事情により遅れてきている。今までは耐震補強を重点的に行ってきており、耐震補強が伴わない学校の改修工事が遅れている。現在、体育施設、公民館施設の耐震化の工事を実施している状況である。最近の資材の高騰により、工事の発注をしても受け手がいない状況もあるが、各学校の平準化を考えて進めていく。</li> <li>・国の予算についても、耐震化及び義務的経費を優先せざるを得ないとのことであり、トイレや空調設置事業等の教育環境の改善事業の改修は予算的に困難な状況にある。しかしながら、トイレの洋式化及びドライ化の改修時期の見直しは必要と考えている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、天井等落下防止対策についても対策を講じていく必要があると考えている。</li> <li>・子どもたちが学校生活を送るうえで「何に不便を感じているか」「何を求めているか」、などの子どもたちの声を吸い上げていきたい。</li> </ul>
--	--

【所管：学校教育課】

### 「子育て支援の充実」

点検項目	病児・病後児保育運営事業
26年度達成目標	たかだ小児科医院に併設した病児保育室「あおぞら」において、病気の児童を一時的に保育および看護ケアを行うことにより、保護者の子育てと就労の両立を支援する。そのため、保護者への周知と利用登録の促進を図る。
目標の達成状況	平成26年4月10日にオープンし、平成27年1月末現在で379人の児童の利用があり、登録児童数は1月末現在で540人の登録となっている。
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用定員 8人</li> <li>・対象児童 生後6か月から小学校3年生まで</li> <li>・開設日 月曜から金曜日まで（休日、年末年始を除く）</li> <li>・開設時間 午前8時～午後6時まで</li> </ul>
自己評価	病気の児童を一時的に保育する専用施設ができ、就労している保護者が安心して子育てができる環境の充実が図れた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもよいシステムである。実施者のメリットに繋げて、協力医院が増えるようにしていただきたい。</li> <li>・行政のサービスとして目に見えるサービスである。開設日は、共働きの保護者にとって、土・日・祝日も利用できる体制の充実が必要と思われる。土、日の当番医と連携協力等により、実施できるような検討していただきたい。</li> <li>・協力医院の先生のボランティア的なことに頼るのでは、厳しい状況となるので、一緒になってやれる組織、方法を検討していただきたい。</li> <li>・協力医院が今後増えるようなPRに取り組んでほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施状況を把握し、保護者が利用しやすい運営となるよう実施者と連携を図りながら協議していきたい。</li> <li>・病気の子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう、保育士・看護師資格を持つスタッフが子どもたちの心のよりどころとして関わられるよう保育し、病児・病後児保育運営の充実に努めていきたい。</li> <li>・利用状況やニーズを把握し、医師会と協力しながら拡充を図りたい。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】

「子育て支援の充実」

点検項目	地域子育て支援講座事業
26年度達成目標	子育ての不安や悩みを分かち合うことで、子育ての不安を軽減するとともに、同世代の子どもを持つ親同士のつながり・交流を促進するための講座を開催する。
目標の達成状況	受講後のアンケート結果では、受講者のほぼ全員から「参加してよかった」と回答があった。
取組の概要	1～3歳の子どもを持つ母親を対象に「子どものイヤイヤ期お助け講座」（NPプログラム）を1講座（6回）と2～5か月の初めての子どもを持つ母子を対象に「親子の絆づくり”赤ちゃんがきた！”」（BPプログラム）を2講座（計8回）を実施。
自己評価	近年の少子化や核家族化から、子育てに対する不安やストレスを抱えており、同じ立場の親同士が話し合いをすることで不安や悩みを分かち合い子育てに対する不安の軽減につなげることができた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が目につくよう医療機関にチラシを張り出すなど工夫をし、周知を十分やってほしい。障がいを持つ親など地域の中で孤立しないよう、きめ細かい温かい支援をお願いしたい。</li> <li>・いろいろな周知方法でPRしているとのことであるが、なかなか伝わっていないと思われる。もっと、市民の目に届くような方法を検討していただきたい。</li> <li>・参加した人たちが満足している事業であるので、もっとPRしていただきたい。どんなによいプログラムでも、参加する人が少ないと効果が上がらない。誘いをかけられるシステム等についても検討が必要である。</li> <li>・問題になるケースは、孤独感と思われる。仲間がいることで助かることが多いが、広く周知する方法を検討していただきたい。</li> <li>・障がいのある子どもたちの支援について、同じ世代の交流サークル等が必要と考える。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して取組を進め、子育てに対する保護者の不安を解消していきたい。</li> <li>・子育て中の保護者から積極的に参加していただけるよう、子育て支援センター・保健センター・医療機関などと連携を図り、事業内容の情報提供とともに講座への参加者拡大に努める。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】



「子育て支援の充実」

点検項目	子育てつばめメール配信事業
26年度達成目標	子育てに関する相談窓口や支援制度、イベントなどの情報を登録した保護者の携帯電話やスマートフォンへメール配信することにより子育てを応援し、市の子育て支援に関する事業や施設など有効に活用してもらう。そのため登録会員の拡大を図る。
目標の達成状況	登録会員の目標人数500人に対し、平成27年1月末現在で474人の登録人数となった。
取組の概要	登録会員の拡大を図るため、子育てイベントやファミリー・サポート・センターの説明会に出向き、チラシの配布とともに事業の説明を行い会員の拡大につなげた。
自己評価	子育てサークルやイベント情報を配信し参加してもらうことにより、保護者同士の交流が図られ育児不安の解消にもつなげることができた。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の保護者に魅力がある内容に今後も充実してほしい。登録者は増えているとのことであるが、紙でなくスマホで容易に子育て支援情報が見られることから、もっと、登録者の拡大を図ってほしい。</li> <li>・一生懸命PRしているとのことであるが、知らない市民もいる。周知方法に工夫をしてほしい。よい事業であるので、どんどん登録者を増やして行ってほしい。広報も利用して、情報を周知してほしい。</li> <li>・広報を見る人、HPを見る人、それぞれの方がいる。担当課だけでなく、市役所全体で登録者が増える取組を考えていただき、子育てしやすい、安心して子どもを育てられる、暮らしやすいまちを目指してほしい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てつばめメールのPRを強化し、会員の拡大と内容の充実を図り、保護者の育児不安の解消と安心して子育てができるよう支援していきたい。</li> <li>・若い子育て中の親子が集まる子育て支援センターなどで、事業が開催されるときに子育てつばめメールのPRに出向き、登録会員の増加につなげていきたい。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】

「子育て支援の充実」

点検項目	(仮称) 子育て総合支援センター運営事業
26年度達成目標	子育て支援相談、情報交換、交流の場の機能のほか、調理室を設置し食育への関心を高めるとともに、サークル活動スペースを設け子育て支援団体を育成する。ファミリー・サポート・センター機能も併設する。そのため、平成26年度は施設整備を行う。

目標の達成状況	旧吉田庁舎の1階東側フロアを改修し、平成27年1月22日完工、平成27年5月7日のオープンに向け準備を進めた。
取組の概要	施設設備として、活動スペース、畳スペース、サークル活動スペース、相談室、授乳室、給湯室、トイレ、デッキテラス、調理室、事務室を設置
自己評価	家庭や地域における子育て機能の低下や、子育て中の保護者の孤立感や不安を緩和するための支援を実施することで、地域の子育て支援機関の充実を図ることができる。
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への周知が大切なので、子育てつばめールなどの機能を活用し周知してほしい。ただの箱ものにならないよう、システムの構築と、PR方法を検討し、魅力あるものにしていただきたい。</li> <li>・子育て事業について、総合的に支援できるような充実した環境整備をしていただき、事業についての関連づけや何でも相談できる窓口の設置等により子育てが安心してできる、住みやすいまちを考えていただきたい。</li> <li>・地域の人が集まらなければ意味がない。人が集まるような工夫と支援が必要と思われる。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は市直営で運営し、市内で子育て支援活動をされている市民団体等の育成を図りながら、今後の運営を検討していく。</li> <li>・子育て総合支援センターの機能を十分に発揮できる運営内容に努めるとともに、多くの市民から利用していただけるようPRを工夫していきたい。</li> </ul>

【所管：子育て支援課】

### 「地域福祉の充実」

点検項目	縁結びサークル支援事業
26年度達成目標	少子化の要因の一つである未婚者の増加を抑制するため、未婚者を良縁へと導く、婚活イベントの開催、情報提供等を行う縁結び世話人サークル1団体の設立を支援する。
目標の達成状況	1団体設立（達成状況100%）
取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員打合せ会を8回開催（4/21、5/19、7/4、7/14、7/28、9/8、10/6、1/19）</li> <li>・社会教育委員を中核とした「設立準備会」を3回開催（11/1、11/29、12/20）</li> <li>・縁結び研修会2回開催（9/20、10/4）</li> <li>・先進地視察研修会1回開催（8/25 小千谷市ときめきめぐりあいサポート事業）</li> </ul>
自己評価	目標として設定した「縁結び世話人サークル1団体設立」については、縁結び研修会の開催、人的支援等を通じ達成できた。

評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚に消極的な人の掘り起こしが重要と思われる。</li> <li>・個人情報の取り扱いには十分留意することに注意していただきたい。</li> <li>・民間のノウハウが必要で行政の事業としては難しいが、地域の人たちが中心となって活動できるような方向へ進んでほしい。</li> <li>・イベントの開催だけでは意味がない。気軽に相談できる体制づくりを検討いただきたい。</li> <li>・よい事業であるので、市民の様々なニーズや情報を集め、市全体が活性化するような工夫した事業としていただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、同様の目的で設立するサークルについても、サークルの社会的信頼度を高め、全ての未婚者が安心して利用できるようにするため、社会教育関係団体への登録を促す。</li> <li>⇒社会教育関係団体登録要件には、団体の活動目的、組織等を明確にするため、会則、事業計画、予算等が必須となることから、個人情報の取り扱い、相談業務等について、会則等の中で規定するよう指導する。</li> <li>・市としては、引き続き社会教育関係団体について、社会教育施設使用料の減免、団体情報周知ツールとして広報・ホームページ利用等を支援する。</li> <li>・つばめ若者会議等とのタイアップ事業の開催について検討していく。</li> </ul>

【所管：社会教育課】

### 「地域福祉の充実」

点検項目	若者就労支援事業
26年度達成目標	働くことに対して様々な悩みを抱えている若者に対して、就労に向けての相談とともに幅広く職業に対する興味および関心を持ってもらうための支援体制を充実させる。
目標の達成状況	<p>(1) 燕出張相談件数 平成25年度の相談件数111件に対し、12月末で74件である。</p> <p>(2) 燕出張相談利用者で就労した人数 平成25年度3名の就労に対し、12月末ですでに7名の方が就労している。</p>
取組の概要	三条地域若者サポートステーションより、毎週火曜日に勤労青少年ホームで出張相談をしていただき、平成26年12月末においては74件の相談があった。また、就労に向けての意識を高めるため、実際の職場を見学し仕事内容や体験談を聞く「サポステ職場見学in燕」を開催している。
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燕出張相談利用者のうち、就労につながった方が12月末で7名となり、平成26年度の3名に対して大幅に増えたことは評価できる。</li> <li>・三条市での燕市の若者の相談件数は、燕市の出張相談の3～4倍であるので、燕市の若者を燕市で支援できる体制を図る必要がある。</li> </ul>

評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートの仕方について、もう少し関わったらよいのではないか。</li> <li>・若い人が仕事に定着しない。どうしたら定着するのか考えてみてはどうだろうか。どういう事業なのか見えてこない部分がある。</li> <li>・心の弱い人が増えている。相談窓口の整備をしていただきたい。</li> <li>・小さいときから、ジョブトレーニング、キャリア教育をすることが大切である。</li> <li>・就職してもすぐ辞めてしまうと職場環境も厳しくなる。若者の心のケアについて、具体的な手立てを検討してほしい。</li> <li>・経営者側も弱い人への雇用、労働条件の改善を検討いただき、会社に長く勤めることができるような取組をお願いしたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燕出張相談を週1回から2回に増やし、燕市の若者を燕市で支援できる体制が拡充することにより、燕市での出張相談件数の増加、職場体験の実施、就労へと結びつけていく。また、様々な悩みを抱えている相談者も多く、心のサポートについても強化していきたい。</li> <li>・本事業については、所管課だけでなく他課との連携を図る仕組みづくりを今後検討していきたい。</li> <li>・職場体験等については、今後、検討が必要と考えている。</li> </ul>

【所管：社会教育課】

### 「燕らしい特色のある教育の推進」

点検項目	家庭教育推進事業
26年度達成目標	<p>(1)子どもたちの豊かな心を育てる活動を、地域・家庭において定着させ推進させる。</p> <p>(2)親子で食の大切さを学び、子どもたちが好ましい食生活を送るための力を育むことで食育を推進させる。</p>
目標の達成状況	<p>(1)家庭教育 講座参加人数： 目標 4,000人 実績 3,431人（予定含む） 講座申請団体： 目標 35団体 実績 30団体（予定含む）</p> <p>(2)食育 講座（教室）数： 目標 2回 予定 1回（3月開催）</p>
取組の概要	<p>(1)家庭教育講座謝礼の一部助成 助成対象： 幼稚園、保育園、小中学校のPTAや保護者 助成額： 1団体 7,000円（上限）</p> <p>(2)食育推進講座の開催 対象者： 市内の小学生とその保護者 講座内容： 「親子で“春の和食”をつくろう！～伝統の食文化を大切に～」 講座回数： 1回（3月14日（土）） ※「春の和食」…春のお祝い寿司（花ずし、てまり寿司）等</p>

自己評価	<p>(1)家庭教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育講座開催の団体数、参加人数とも昨年の実績を下回ってしまった。</li> <li>・講座開催の満足度は、「満足」と回答した割合が83.3%と高い。</li> </ul> <p>(2)食育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座（教室）の開催は2回を目標に予定していたが、1回（3月開催）の開催となり目標回数に達することができなかった。</li> </ul>
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年代で悩みは多く家庭教育は大変重要である。少ない助成金ではあるが有効に活用していただきたい。</li> <li>・魅力ある講演会を行っていただきたい。</li> <li>・団体への助成がほとんどである。講演会が悪いわけではないが、8つの項目を具体的に定着させるにはどうしたらよいか、工夫が必要になってくる。聞きっぱなしではなく、グループ討議、ワークショップ等を実施について検討していただきたい。</li> <li>・8つの項目をどれだけ市民がわかっているのか疑問である。言葉だけやっていると思われるような気がする。具体的に子ども、保護者、地域でどうやって定着させていくのか、プランニングがよくないのではないかとと思われる。継続的に実施されているが前進が感じられない。</li> <li>・事業目標と実施事業の内容に違いがあるように思われ、根本的な事業の見直しが必要と思われる。同じ事業を長く実施することがいいことではない。課題を検討し、もっと丁寧な事業計画が必要である。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年の教育行政評価においても同じような意見をいただき、本事業についてはひと工夫、ふた工夫していかなければならないと考える。一朝一夕では解決できないが課内でも検討していきたい。</li> <li>・講演会の実施そのものは悪いことではないので、講演会プラスαの実施を検討していきたい。</li> <li>・行政部局での横断的、総合的な取組を今後検討していきたい。</li> </ul>

【所管：社会教育課】

「生涯学習・文化活動の推進」

点検項目	分水良寛史料館・長善館史料館活性化事業
26年度達成目標	両史料館の活性化に取り組み、史料館のファンを増やす。
目標の達成状況	<p>分水良寛史料館</p> <p>入館者数 25年度 4,676人、26年度見込 3,645人（前年比77.9%）</p> <p>長善館史料館</p> <p>入館者数 25年度 1,793人、26年度見込 1,511人（前年比84.2%）</p>

<p>取組の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良寛関係近隣施設（和島・出雲崎）とは、ホームページのPR 連携をスタートした。</li> <li>・分水良寛史料館は4回の企画展の他、ミニギャラリー展で地元作家の芸術作品を展示した。長善館史料館は4回の企画展を開催した。</li> <li>・長善館史料館は、25年度から筑波大学連携事業所蔵史料（約1,500点あまり）の資料目録のデータ作成に取り組んでおり、史料的価値の向上と誘客に効果する展示コンセプトの設定を目指している。</li> </ul>
<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良寛関係近隣施設（和島・出雲崎）とは、3回の会議を開き連携協力を確認できた年であった。（27年度は相互利用の優遇などを検討予定）</li> <li>・入館者は、不景気や観光ルートになっていないことから、減少している。（団体利用も減少）。</li> <li>・良寛関係の史料の借用も相手先の世代交代の関係であまり借用できず（売却？）、企画展の展示に苦労をしている。</li> </ul>
<p>評価委員の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良寛史料館は全国的にも知られていても長善館についてはマイナーであり、周知の徹底が必要。</li> <li>・展示も好意的に見れば手作り感があるが、悪くとると自己満足的で、鈴木文臺先生の功績が分かりにくい。系列的に展示されていないので、もっと工夫が必要。</li> <li>・長善館の場所がわかりにくく、案内看板等によるアピールが必要である。</li> <li>・両史料館とも慢性的な入場者の伸び悩み、来館者を増やす方策はない。</li> <li>・筑波大学と連携して資料を整理することで学術的には非常に大事な資料となるかもしれないが、一般市民にとっても有効な資料となるように活用方法を検討する必要がある。</li> <li>・短歌大会や漢詩大会などの参加型の催物を検討し、リピーターが増える工夫をしていただきたい。今までと同じことだけでなく、何か違ったことを検討しないと、展示したものを見るだけでは、資料の保存庫となっている。</li> <li>・燕長善館タイム、つばめっ子かるたで子どもたちは名前を知っている、名前だけでなく、歴史的なことも分かりやすく伝えて、もっと活用する方法を検討していただきたい。</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分水良寛史料館は、関係近隣施設との連携を深め、相互に活性化を図りたい。</li> <li>・長善館史料館は、隣地に補助金で購入してある土地があり、地域住民の意見を聴取しながら、活性化を探りたい。</li> <li>・合併して10年経過するので、筑波大学の資料の整理を契機に今後の活用を検討していきたい</li> <li>・良寛会のサポートを活用させていただき、有効な活用方法の検討を進めていきたい。</li> <li>・大学等の勉強の場としての利用案内を促進し、また、燕市の観光ルートとしての取組を進めたい。</li> </ul>

【所管：社会教育課】

「スポーツを通じた健康づくり活動の推進」

点検項目	子どもの体力向上サポート事業
26年度達成目標	小学生の基礎体力・運動能力の向上を図ることを目的とし、サポートプログラムを作成し、平成25年度に引き続き、モデル校(分水小学校)にて実施し体カテストにて成果を示す。
目標の達成状況	平成26年度の体カテストの結果では、あまり目に見えて成果が表れていないが昨年度弱かった種目が少しよくなっている。 学校での実施時期が6月5日(春先)ということもあり、平成26年度の成果は、まだ見えてこない状況と思われる。 本事業の実施に当たって、事前事後に学校側の意見を取り入れながら問題点の検証を行っている。
取組の概要	体育授業の最初に簡単な準備運動を行っていた時間10～15分程度を利用し、主運動につながる補助運動として基礎体力・運動能力を上げられるサポートプログラムを総合型スポーツクラブに依頼して開発するとともに、プログラムに基づく実技指導も総合型スポーツクラブが行っている。
自己評価	10分～15分間の短い時間だが、運動量も適量であるし児童も慣れてきたようで動きもよくなっている。 また、児童が慣れてきたことを考え、ステップアップ的なプログラムを与えられる準備が必要と思われる。 (学年により難度、負担量の考慮が必要)
評価委員の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動する場面がなく、体育嫌いや運動嫌いが増えている。</li> <li>・家庭生活、学校生活の中でどのような方法で基礎体力を付けていくか考えることが大切である。今の子どもたちは、体力を付ける機会が少ない。放課後に学校活動とは別のところで運動している子どもは体力を付けることができるが、それ以外の子どもたちは、難しい状況である。子どもがTVゲーム等で遊ぶ時間が増えている中で、体力づくりは難しい。</li> <li>・学校の式典は、子どもの体力がなくて、立ってやれなくなってきた。</li> <li>・体だけ大きくなっているが、体力がない。</li> <li>・学力だけでなく体力も大事である。学習面においても持久力や我慢できる、ちゃんと座って話が聞けるようになるとか、体力はすべての基本となってくる。是非、頑張るって拡大して欲しい。</li> <li>・技術を教えれば上手くなるということでもなく、基本体力を付けないと解決しない。全体に基礎体力が落ちているため、この事業については継続してもらいたい。</li> <li>・10分間の試みは大変よい活動と思われる。もっと工夫しながら、学校教育課とタイアップし、充実して欲しい。</li> <li>・施設整備を充実させ、屋内外でも運動ができるようにして、この事業を継続して欲しい。</li> <li>・次年度のヘキサスロンについて、効果があるのなら体育の先生にも研修</li> </ul>

	<p>に参加してもらい、均一に全校を対象に行ってもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力づくりのために学校、地域でもっと具体的なプログラムを工夫して、全校、職員、生徒が一体となって体力向上に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒が自主的に正しく行えるようなプログラムの作成を行うとともに、先生方にも今以上に総合型スポーツクラブのサポーターをもっと活用してもらい体力向上を図っていく。</li> <li>・子どもたちが楽しく運動ができるようなプログラムを作成する。</li> <li>・「全国体力・運動能力テスト」で体力テストの全国平均を上回ることを目指す。(小5・中2)</li> <li>・「全県児童生徒の体力テスト」で県平均を上回ることを目指す。(全学年)</li> </ul>

【所管：社会教育課】

#### IV 教育行政評価結果報告書作成にあたって

平成26年度は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が大幅に改正され、「市長が教育行政に果たす責任や役割の明確化」が示されました。この法改正の趣旨を踏まえ、これまで以上に、市長と教育委員会が意思疎通を図り、両者が教育施策の方向性を共有し、教育行政のよい点を継続するとともに、改善点を洗い出し、精査・再検討していく必要があると考えております。

また、市民の生涯学習の機会として、文化的資源を大事にして、市民の学びに積極的に活用できるような事業を進めるとともに、既にある様々な学びの機会を一層活性化していくことと、本当に必要な事業なのかの見直等の判断も大切だと考えております。

教育委員会においては活発に活動し、事業展開を進めてきていますが、規模の大きさや課題の多様化、複雑化、環境の変化など、教育行政に期待される事業の量と質は、ますます拡大し変貌してきています。

市民が抱く教育への関心と期待は、ますます高まってきており、「暮らしやすい」「子育てしやすい」「安心して生活できる」まちづくりを目指すことが望まれます。

